

年間第28主日

「子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことか。²⁵金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」²⁶弟子たちはますます驚いて、「それでは、だれが救われるのだろうか」と互いに言った。²⁷イエスは彼らを見つめて言われた。「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。」

-マルコ10. 23-27

今日のイエス様の言葉は非常に厳しく、挑戦的だと思います。

「お金はすべての悪の根源である」と誰かが言いました。しかし、お金や富は必ずしも悪ではありません。イエス様でさえ、お金持ちの友人から提供された食事やその家に泊まることを楽しんでいました。お金がなければ、子供に教育を受けさせたり、生活に必要なものを購入したりできません。お金があれば、慈善事業を行ったりと、多くの善行を行うことができます。

一方、貧しさは必ずしも美徳そのものではありません。例えば、貧しい人は、その貧しさゆえに自分の人生を呪ってしまいます。しかし、その貧しさにもかかわらず、神に目を向け、祈り、神を崇めることができるならば、それは美しい徳です。また、貧しさにもかかわらず教会の活動や宣教活動に積極的に参加し、同胞を助けることができれば、貧しさはキリスト教の美しい徳となります。

物質的な豊かさから離れることは、私たちが神に執着する一つの方法です。豊かであることの危険性は、富への過剰な執着と、それに伴って利己的な快樂を追い求めることにあります。

イエスは、物質的な**所有物**への執着を戒めています。お金や仕事、この世の快樂や所有物は、私たちにとりつき、私たちをとりこにします。貪欲にお金を追い求めたために、健康、心の平穩、よい人間関係を失ってしまった人がどれだけいるでしょう。また、人生で何が大切かという価値観、名声、そして魂までも失ってしまった人がどれほどいることでしょう。

お金は私たちが幸せにしてくれますが、同時に不幸にしたり、ストレスを与えたり、悲しませたりもします。私たちが学ばなければならないのは、お金に対する健全な態度、つまり、お金の奴隷にならないことです。お金を人生の中心にしないことです。言い換えれば、お金を私たちの神としないことです。

昨今の私たちは、仕事に執着し、テレビに執着し、スマホやiPod、パソコン、インターネットなどに執着する「執着世代」となっていませんか。これらの物に執着するあまり、人や神からも離れてしまうかもしれません。

もうひとつ重要なことは、この世界では、金持ちはますます金持ちになり、貧しい人はますます貧しくなるということです。これは、不公平や不公正、特に利己主義やエゴイズムのせいかもしれません。

豊かさは神からの祝福です。私たちがその恵みを互いに分かち合えば、世界の貧困は減り、より平和になるでしょう。

今日、イエスは私たちに、自分の富に気をつけるように注意し、自分に与えられた祝福を他の人にも分け与えるように招いています。

分け合うことで、私たちは貧しくなることはありません。むしろ、与えることによって、私たちはより祝福され、より与えられるようになるのです。

分かち合うということは、物質的なものだけでなく、優しさ、寛大さ、配慮、注意、愛などの精神的なものも意味します。

そのことについて考えてみましょう。神は決してあなたを空っぽにしません。私たちが失ったものをすべて補ってくださいます。

もし神が私たちに何かを捨てるように言われるなら、それは私たちがもっと大きなものを得ることを望んでおられるからです。神様が、私たちがこの世の快樂に囚われないように、利己的な快樂から離れた生活になることを助けてくださるよう祈りましょう。

